



家庭教育 なう no.3



2023年6月発行
恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田1067-71

TEL 0573-26-1111 (内線209)
FAX 0573-25-7129
Mail oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

家庭教育学級リーダー研修会への参加 ありがとうございました

今年度も、多くの皆様にお集りいただきました。ありがとうございました。
昨年度はリモートで東濃5市の会場をつなぐ形で行っていましたが、今年度は各市の会場を訪問させていただき、リーダー研修会を実施しました。
対面形式でお顔を拝見してお話を伺い、そして、こちらの説明も聞いていただけました。
そこには、リモートではわかりにくかったみなさんの表情や、「傾聴」いただいている姿も伝わってきました。やはり、対面研修会でなければ、味わえないことがあると感じました。
皆さんの感想にも、対面形式で行うことよさに関する感想がたくさんありました。

5月15日 土岐市会場 (セラトピア土岐)

たいへんアットホームな雰囲気で開催が進みました。
家庭教育を推進する上での負担感を減らすことなど、悩みの交流が進みました。アイスブレイクの効果は大きいです。



土岐市会場 幼保の部 交流会 アイスブレイクの様子



参加者の声
アイスブレイクの説明や実践をした後に、他園の方と交流会をする流れだったので、とても和やかな雰囲気での交流できてよかった。
家庭教育学級を進める上で、参加者がリラックスして笑顔で交流できるように主催者が雰囲気作りをすることの大切さを学ぶことができた。
(土岐市 園の保護者)

土岐市会場 小中の部 交流会 グループ代表者のお話



参加者の声
働くお母さんが多い中で、研修会にも参加できない方が多いと思いました。
園でも平日の昼間に行う行事の参加率が低いなどと思っています。
アプリなどで、子育てに関する情報を見れたり、参加できたりしたら自宅でも仕事の合間でも時間ある時に情報共有できるかなと思いました。
(土岐市 小学生の保護者)

5月17日 多治見市会場（とうしん学びの丘“エール”）

多治見市会場でも参加者の積極的な発言と、親和的な雰囲気の中で交流が進みました。「保護者の参加率をあげるには？」が話題となったグループで、『「ものづくり」と「運動すること」を企画に入れると参加率があがる。』などたいへん貴重な実践例を示唆していただきました。

多治見市会場 幼保の部 交流会 市担当者も交えての交流



参加者の声

「家庭教育通信なう」でいつも情報をお伝えいただけることで、自園の活動に活かせる、また紹介できることが多くあります。なかなか難しいですが、保育園も巻き込んでいけると良いかと思えます。
(多治見市 こども園の先生)

多治見市会場 小中の部 交流会 終わりのまとめの場面



参加者の声

サロン型でお互いの考えを交流することは、それぞれの子どもを見るまなざしの共通点を探るような感じがします。そこが温かい雰囲気へとつながっているように思いました。
(多治見市 中学校の先生)

人と会うのも大切な「子育て学び」です
顔を合わせて交流することの大切さを感じさせる両会場の研修でした。



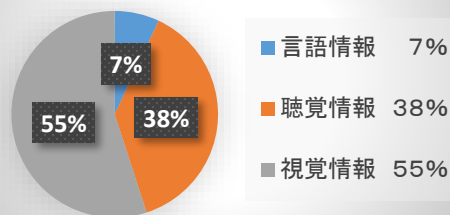
言葉とともに表情、しぐさ、雰囲気も一致させることが大事

コミュニケーション能力を鍛えようと思うと、「どう話すか」「何を話すか」など、言語領域のスキル向上に意識が向きがちです。しかし、言葉以外の部分も非常に重要だと言われています。

「メラビアンの法則」という、非言語コミュニケーションに関する実験があります。この研究では、相手の感情を読み取る際に、大部分の情報を次のとおり非言語領域（視覚、聴覚）から得ていることが分かっています。

言語情報 7% 聴覚情報 38% 視覚情報 55%

メラビアンの法則



そして、何より大切なのは「感情的なメッセージを伝えるときに、声のトーンやジェスチャーが、言いたいことと一致していないと、誤解させてしまう可能性がある。」ことを研究したものだそうです。例えば、「笑いながら、叱る。」とか、「納得いかない表情で、ほめる。」などです。

どちらの情報が相手に受け取られやすいかということ・・・

「笑いながら叱る」場合には、「笑う」という視覚情報が優先されるそうです。

「納得いかない表情でほめる」場合は、「納得いかない表情」が優先されるそうです。

自分の思いは、言葉と表情、しぐさ、雰囲気が一致すると相手に伝わりやすいですね。